十勝の学校で使われ始めた頃のコンピュータ

現在、わたしたちにとって身近な機器となっている「パソコン」。十勝の学校でコンピュータが使われ始めたのは、いつ頃なのでしょう？

【コンピュータの教育利用に向けた気運の高まり】

昭和５０年（１９７５年）頃、各メーカーから個人向けのコンピュータが発表されるようになると、マスコミはパソコン時代の始まりと紙面をにぎわすようになりました。それに伴い、教育界でのパソコンの教育利用に対する関心が少しずつ高まっていったのです。

十勝におけるコンピュータの教育利用に向けた模索は、昭和５７年（１９８２年）頃から始まったと言われます。

昭和５８年（１９８３年）１月には、十勝で初めてとなるコンピュータの研修会が、鹿追町立上幌内小学校で開催されました。「コンピュータとは何ぞや？」という基礎の基礎から始まる内容でした。

【上幌内小学校で始まったコンピュータ利用教育】

鹿追町立上幌内小学校では、昭和５９年（１９８４年）からの３年間、筑波大学学術情報処理センターの実験協力校として、北海道教育大学附属工学センター等の協力も受けながら、「小規模校におけるCAI（※１）」の研究に取り組みました。複式学級の学習において、教師が一方の学年を指導している間、他方の学年の子どもたちがコンピュータを活用して学習を効果的に進めることが中心的な内容でした。

この研究は、子どもたちの学習意欲や基礎学力の向上、集中力の高まりなどの面で注目を集め、まとめとして発表した教育実践論文は高く評価されました。

また、昭和６１年（１９８６年）には、「第３６回全道へき地・複式教育研究大会十勝大会」の会場校の一つとして、上幌内小学校の研究や授業実践が発表されました。

上幌内小学校は、小規模校における「CAI の先進校」となったのです。

【鹿追町におけるコンピュータ利用教育の普及・促進】

昭和６０年（１９８５年）頃からは、十勝管内の先進的な町村において小中学校にワープロやパソコンを導入する動きが本格化しました。

鹿追町は、管内の町村に先駆けて、昭和６０年（１９８５年）から昭和６１年（１９８６年）にかけて、町内の小中学校に計２０台のコンピュータを導入しました。このうち、鹿追町内の小規模校に導入されたコンピュータが、展示している「シャープ　X-1」（オーサリングシステム（※２）付き）なのです。

また、平成元年（１９８９年）には、「鹿追町コンピュータ教育研究会」が組織されました。研究会や研修会の開催や学習ソフトのライブラリー化に取り組むとともに、町内の学校の担当者を筑波大学などの研究機関に研修派遣する事業も行われました。

ハード・ソフト両面の整備が進められるにつれ、コンピュータを積極的かつ有効に活用するための教育実践が、町内の各学校において広く試みられるようになったのです。

（※１）「CAI」…「Computer Asisted Instruction」の略。コンピュータを使って教えるという意味
（※２）「オーサリングシステム」…教材を編集したり実行したりするためのプログラム

【参考文献】

『十勝教育史　第２集』　十勝小・中校長会　昭和６２年
『第３６回全道へき地複式教育研究大会（十勝大会）研究紀要』十勝大会実行委員会　昭和６２年

（文責　十勝・帯広コンピュータ教育利用研究会）